

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 27 年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて ㊦ WEB 事前参加登録 6 月 1 日～7 月 31 日	86
○平成 27 年度農業農村工学会大会講演会（岡山大会）の企業展示および広告掲載申込みについて 申込締切 6 月 30 日	87
○論文集が変わります！ オンラインジャーナル化に伴い投稿資格・諸経費等が変更になります	87
○よりよき設計のために「頭首工の魚道」設計指針の発行について	88
○平成 27 年度「研究グループ」の助成金募集について 申請締切 6 月 30 日	89
○平成 27 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について 申請締切 9 月 11 日	89
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願ひ	90
○「水土の知（農業農村工学会誌）」閲読者の氏名公表とご協力のお礼	90
○「農業農村工学会論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼	91
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集！！	92
○平成 28 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	92
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	93
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願ひ	94
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願ひと 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	94
○第 72 回京都支部研究発表会の開催について（第 1 報）㊦ 発表申込締切 6 月 30 日	95
○平成 27 年度九州沖縄支部大会の開催について（第 1 報）㊦ 開催地：那覇市	96
農業農村工学会論文集投稿の手引き	97
学会記事	104

会員のみなさまへ

例年、4 月には転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。

引き続き学会誌を正しくお届けするため、学会に登録されている会員データに変更が生じる場合は、ご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、学会誌を職場等で連絡委員を通じてお受取りの方は、連絡委員にその旨、お申し出下さい。

それ以外の学会誌を自宅等で直接お受取りの方は、学会事務局までご連絡下さい。

詳しくは、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の 会員について＞個人情報の変更（異動、転居等）をご覧ください。

第 83 巻第 5 号予定

展望：今年は国際土壌年：長谷川周一

小特集：国際土壌年 2015 特別企画：かけがえのない土壌のために農業農村工学ができること、すべきこと

- ①基盤整備圃場の適切な生産性を確保する土壌物理性管理指標：北川 巖ほか
- ②大規模傾斜畑圃場における土壌保全対策法：中尾誠司ほか
- ③土科学の芽をはぐくむ：粟生田忠雄
- ④伝統的な集水技術を活用した乾燥地の土壌保全管理：北村義信
- ⑤ウズベキスタンの塩害農地における垂直排水の実態：奥田幸夫ほか
- ⑥泥炭地水田にみる土壌の維持管理：草野久美恵

技術リポート

北海道支部：妹背牛地区における区画整理の効果事例：長土居智直ほか
東北支部：宮城県沿岸部（泥炭層地帯）の大区画化における地耐力確保：高橋昇一
関東支部：揚水機場におけるストックマネジメントの取組み事例：増田隆一
京都支部：鋼構造物による海岸保全施設の維持補修技術：大島弘之ほか
中国四国支部：適正かつ安全なため池管理手法の考察：橋本 誠
九州沖縄支部：環境配慮対策における地域へのアプローチと合意形式：丸目伸幸

小講座：国際土壌年：瀧山律子

私のビジョン：復興農学教育にかけの思いとアウトリーチ活動の展開：徳本家康

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成27年6月18日	資源循環研究部会	平成27年度研究発表会 Ⓟ	バイオマスを利活用した循環型の地域づくりに向けて	東京都	83巻2号
平成27年9月1～4日	大会運営委員会	平成27年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	岡山市	82巻12号 83巻1号
平成27年10月28～30日(予定)	九州沖縄支部	平成27年度支部大会 Ⓟ	—	那覇市ほか	83巻4号
平成27年11月19, 20日	京都支部	第72回支部研究発表会 Ⓟ	—	大津市	83巻4号

平成27年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成27年度農業農村工学会大会講演会は、平成27年9月1日(火)～4日(金)の4日間、岡山大学津島キャンパス(岡山県岡山市)で開催されます。本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録(事前登録)は平成27年6月1日から7月31日までです。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌6月号(Vol.83/No.6)をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

1. 開催要領

(1) 開会式および学会賞授与式：

9月1日(火)13:30～

会 場 岡山大学創立五十周年記念館
(岡山市北区津島中1-1-1)

(2) 交流会：9月1日(火)18:00～

会 場 岡山全日空ホテル1階『曲水の間』

(3) 講演会：9月1日(火)、2日(水)、3日(木)

会 場 岡山大学津島キャンパス
(岡山市北区津島中2-1-1)

(4) 現地研修会：9月4日(金)

岡山市近郊(1コース)

開会式および交流会の開始時間についてはプログラムの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細・プログラムとともに本誌6月号に掲載します。

2. 申込方法

平成27年度農業農村工学会大会専用ホームページ(2015年6月1日から7月31日まで)から参加登録(事前登録)をして下さい。8月1日以降は当日登録(8,000円)のみとなります。このホームページは農業農村工学会のホームページからもリンクされます。ホームページによる登録ができず、そのほかの方法での申込みを希望する場合は、「8. (1) 参加申込に関する問合せ」までご連絡下さい。

3. 参加費用

(1) 大会参加費用と内容

区 分	事前登録(7/31まで)	当日登録
一 般	6,000円	8,000円
学 生	3,000円	5,000円

キャンセルの場合、8月1日以降は50%、8月31日以降は100%のキャンセル料が発生します。

(2) 交流会参加費：一般 7,000円、学生 3,000円

(3) 現地研修会参加費：3,000円(昼食代別)

4. 講演要旨集について

CD-ROM版講演要旨集を参加者全員にお渡しいたします。事前の送付を希望する場合は、ホームページでの参加登録時にお申し込み下さい。ただし、CD-ROM版講演要旨集の事前送付は事前登録期間(7月31日まで)にお申し込みいただいた場合のみの対応となります。

なお、CD-ROM版講演要旨集とは別に、プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の200字要旨などを収録した大会概要集を、大会当日受付にて参加者全員にお渡しします。

5. 昼 食

昼食や弁当の予約、手配はいたしません。大学内の生協や近くのコンビニなどをご利用下さい。

6. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しません。あらかじめご了承ください。

7. 会場までの交通案内

岡山大学津島キャンパスは、岡山駅からは徒歩約25分、津山線法界院駅からは徒歩約10分となっています。また、路線バス(【47】系統「岡山理科大学」行き「岡大西門」下車)の利用も便利です。詳しくは次の岡山大学ホームページを参照して下さい。

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html

8. 問合せ先

(1) 参加申込に関する問合せ

(株) 近畿日本ツーリスト中国四国 岡山支店
平成 27 年度農業農村工学会大会係 (小野)
〒700-0907 岡山市北区下石井 2-1-3
岡山第一生命ビル 2 階
TEL : 086-224-4444 FAX : 086-224-3425
E-mail : 27nogyookayama@or.kntcs.co.jp
営業時間 : 月～金 9 : 00～17 : 45
(休業日 : 土・日・祝)

(2) 大会全般に関する問合せ

平成 27 年度農業農村工学会大会事務局
諸泉利嗣 または 森 也寸志
〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1
岡山大学環境理工学部環境管理工学科
TEL : 086-251-8877 (諸泉), 8875 (森)
FAX : 086-251-8892
E-mail : 2015nnOU@okayama-u.ac.jp

9. 大会実行委員会

委員長 永井明博

岡山大学大学院環境生命科学研究科 (環境理工学部環境管理工学科)

平成 27 年度農業農村工学会大会講演会 (岡山大会) の企業展示および広告掲載申込みについて

平成 27 年 9 月 1 日 (火), 2 日 (水), 3 日 (木) の 3 日間, 岡山市・岡山大学津島キャンパスで開催する平成 27 年度農業農村工学会大会講演会では, 本年度も企業展示および大会講演会概要集への掲載広告を募集します。展示および広告掲載を希望される企業は, 下記要領によりお申し込み下さい。

1. 企業展示 (展示会場)

岡山大学津島キャンパス

※具体的な場所や条件はお問い合わせ下さい。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載 (B5 判モノクロ印刷)

※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

いずれも消費税 8% を含みます。

① 広告 1 ページ	60,000 円
② 広告 1/2 ページ	30,000 円
③ 企業展示 (屋内)	80,000 円
④ 広告 1 ページ + 企業展示 (屋内)	120,000 円
⑤ 広告 1/2 ページ + 企業展示 (屋内)	100,000 円

4. 申込方法

(1) 申込手順 (a → b → c → d)

a (貴社) 所定の申込用紙 (学会ホームページの「事務局からのお知らせ」の農業農村工学会大会講演会のページ (<http://www.jsidre.or.jp/outline/zenkokutai/>) に掲載) と (2) 展示概要 (任意様式) を送付 (郵送, E-mail 等)

b (事務局) 申込み受付後, 貴社へ請求書発送

c (貴社) 振込み

d (事務局) 領収書および広告掲載紙を発送 (完了)

(2) 展示概要 展示する内容および必要物品等 (要電源, 机, イス等), 希望事項 (屋内スペースで〇〇 m², 屋外スペースで〇〇 m²等) 等を任意様式で作成・提出して下さい。(基準面積は 2.7 m × 1 m (屋内) です。)

(3) 申込期限 平成 27 年 6 月 30 日 (火) まで

(4) 振込先

・金融機関 : ゆうちょ銀行

・店 名 : 五四八

・店 番 : 548

・預金種目 : 普通預金

・口座番号 : 0390771

・口座名義 : 平成 27 年度 農業農村工学会 大会講演会
実行委員会

(5) 申込み・問合せ先

平成 27 年度農業農村工学会大会講演会事務局

(柴田俊文あて)

〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1

岡山大学環境理工学部内

TEL : 086-251-8154 (直通) FAX : 086-251-8881

E-mail : tshibata@cc.okayama-u.ac.jp

(問合せは, できるだけ E-mail でお願いします。)

論文集が変わります !

オンラインジャーナル化に伴い投稿資格・諸経費等が変更になります

論文集は, より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため, 第 236 回理事会 (平成 27 年 3 月 16 日開催) での審議を経て, 平成 27 年 4 月より投稿資格・諸経費等が以下のように変更になりました。詳細は本誌 97 ページおよび学会ホームページ

ジ掲載の「投稿の手引き」 (http://www.jsidre.or.jp/publication/doc/how_to_submit_20140314.pdf) をご参照下さい。

1. J-STAGE を利用したオンラインジャーナルを主公開手段とします。

- ① 審査終了後、順次J-STAGEに掲載します。
- ② 論文集購読者はIDとパスワードにより公開直後から本文閲覧ができます。
- ③ 非購読者は掲載後1年間、書誌情報と要旨のみ閲覧可能です。その後は本文閲覧が可能となります。
- ④ 著者が早期公開を希望する場合は経費を負担することで、掲載と同時に本文閲覧を可能とすることもできます。
- ⑤ 冊子体も当分の間、従来通り隔月に発行しますが、原則白黒印刷となります。

2. 投稿資格について

- ① 第一著者が会員かつ論文集購読が必要、との条件を廃止します。
- ② 投稿資格は、「著者に論文集購読者が1名以上含まれる」または「第一著者が会員」とします。

3. 経費について

- ① 投稿料、別刷り購入義務を廃止し、掲載料（J-STAGE登載料を含む）をJ-STAGE掲載後にいただきます。
- ② 掲載料は研究論文、研究報文、研究展望の場合は32,400円（税込）、研究ノートの場合は21,600円（税込）です。なお、第一著者が会員で論文集を購読していない場合は5,400円（税込）を加算し、第一著者が非会員の場合は10,800円（税込）を加算します。ただし、第一著者が学生会員の場合は加算額を免除します。
- ③ 超過ページ代は1ページ当たり16,200円（税込）です。
- ④ 早期公開費用は1編当たり4,320円（税込）です。
- ⑤ 冊子体のカラー印刷代は1ページ当たり99,360円（税込）です。
- ⑥ 別刷り希望者には、実費（作成費および必要経費）にて対応します。

4. 論文集学生会員購読料について

学生会員の年間購読料を4,320円（税込）に値下げします。

5. 論文集購読者のメリット

- ① 冊子体の配布があります。

従来と改定後の変更点（価格はすべて消費税8%込）

項 目		従 来	改定後
公開手段	公開時期	2カ月ごとに発行の論文集誌上で公開	掲載決定後、順次Web上で公開
	オンラインジャーナルの本文閲覧	閲覧者を限定せず、冊子体発行1年後から学会ホームページとJ-STAGEで閲覧可	・論文集購読者は掲載直後 ・非購読者は掲載1年後 ・早期公開希望により、掲載直後からも可
	冊子体の発行	年間6回	・当分の間変更なし ・原則白黒印刷
投稿資格		・第一著者が会員かつ ・論文集購読者	・著者に論文集購読者を1名以上含む または ・第一著者が会員
経 費	投稿料（従来）と掲載料（改定後）	投稿料あり	投稿料なし
		掲載料なし	掲載料あり
		投稿料 ・一律16,458円	掲載料 ^{注）} ・研究論文・研究報文・研究展望 32,400円 ・研究ノート 21,600円
	別刷り代	購入義務あり 30部 16,776円 50部 18,864円 100部 20,962円	購入義務なし ・別刷り希望者は実費（作成費および必要経費）
		超過ページ代	18,864円/ページ
	J-STAGE登載料	4,114円	なし（掲載料に含まれる）
	早期公開費	なし	4,320円
	冊子体のカラー印刷費	実費	99,360円/ページ
	学生会員購読料	8,175円	4,320円

注）第一著者が会員で論文集購読者でない場合は5,400円、第一著者が非会員の場合は10,800円を加算。ただし、第一著者が学生会員の場合は加算額を免除。

- ② オンラインジャーナルに新規掲載があるごとにメール連絡が受けられ、掲載直後からIDとパスワードで本文閲覧が可能です。
- ③ 掲載料が非購読者と比較して低価格となります。

よりよき設計のために「頭首工の魚道」設計指針の発行について

この度、よりよき設計のために「頭首工の魚道」設計指針の改定版が平成27年2月27日に発行されました。

〈まえがきより抜粋〉

近年の頭首工の魚道に関する設計・施工の動向は、(中略)改修事例が増加しており、その改修の理由として、河床低下、老朽化等といった魚道の機能低下に対する対策が大半を占めています。また、魚道の維持管理上の課題として、ごみや流木等の流下物対策や堆砂対策が多くなっています。(中略)改定では、機能保全の視点を加味した施設設計・管理の考え方を記載するとともに、近年の魚道の新築及び改修実績の事例を踏まえ、多

魚種へ配慮した魚道形式の追加や、集魚効果を向上させるための呼び水施設の留意事項等を記載しています。

さらに、(中略)従来の水理模型実験に加えて、一部の代表的な魚道形式では数値解析手法（コンピュータシミュレーション）による検討が可能となりつつあることから、その事例を取り入れ内容の充実化を図っています。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

1. 発行書籍

書籍名：よりよき設計のために「頭首工の魚道」設計指針
価 格：2,600円（消費税8%込、送料学会負担）

規 格：A4 判 約 240 ページ

改定年月：平成 26 年 3 月

2. 申込方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。
- ③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を

記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail または FAX でお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail または FAX でお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社) 農業農村工学会事務局 図書係
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：suido@jsidre.or.jp

平成 27 年度「研究グループ」の助成金募集について

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 27 年 6 月 30 日（火）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会ホームページ参照）で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり 1～2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成 27 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 27 年 9 月 11 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。

3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」

は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成27年9月11日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

「水土の知（農業農村工学会誌）」 読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会誌は、昭和4年の学会創立とともに、「農業土木研究」として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行を続けてまいりました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業農村工学会誌企画・編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成26年4月から平成27年3月までの一年間

に学会誌の内容充実のためにご協力、貢献いただきました方々のお名前（五十音順・敬称略）を記し、貢献への証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

池 浦 弘	上 田 達 己	大 西 健 夫	梶 原 義 範	北 辻 政 文
泉 智 揮	上 野 和 広	大 野 研	柏 木 淳 一	木 全 卓
市川 敬一郎	内 田 一 彦	奥 平 浩	加 藤 千 尋	工 藤 庸 介
井 上 京	大 江 慎 哉	長 利 洋	上 條 剛	小 峰 正 史
今 井 忠 延	大 澤 和 敏	小 野 寺 康 浩	川 名 太	小 柳 倫 太郎

近藤 雅秋	鈴木 尚登	中島 正裕	林 春奈	森井 俊広
齋藤 邦人	鈴木 正貴	中田 撰子	福与 徳文	谷藤 政弘
齊藤 忠臣	清野 修	中村 和正	藤川 智紀	山岡 賢
櫻井 伸治	關 保昌	中村 公人	細川 学範	山口 康晴
佐藤 健	高木 強治	仲村 剛	堀田 昇克	山口 武彦
佐藤 新	竹内 潤一郎	永代 成日出	堀野 治彦	山路 永司
澤田 豊	多田 明夫	永吉 武志	松尾 芳雄	山下 良平
島田 沢彦	田中 良和	仲村 渠将	松野 裕	山本 忠男
清水 克之	田中丸 治哉	西井 武夫	皆川 明子	吉川 夏樹
清水 夏樹	谷口 智之	西村 眞一	皆川 裕樹	吉田 修一郎
清水 穂高	田村 孝浩	西村 直正	宮本 輝仁	吉本 周平
下川 昇大	塚本 康貴	新田 康二	宮本 英揮	
杉山 行男	床次 武富	八丁 信正	宗岡 寿美	
鈴木 哲也	豊満 幸雄	濱上 邦彦	村松 陸宏	

「農業農村工学会論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊」1号から数えて、平成27年4月には通算296号となります。査読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく刊行できましたことを、深く感謝申し上げます。

農業農村工学会論文集企画・編集委員会では、査読者への感謝の意を表すべく、平成26年4月から平成27年3月までの一年間に投稿原稿を査読され、論文集に掲載されるにふさわしい

内容の維持にご協力いただきました方々のお名前（五十音順・敬称略）を記し、貢献への証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し上げます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

相木 寛史	大西 健夫	小出水 規行	島田 沢彦	渡嘉敷 勝
青野 靖之	岡澤 宏	古賀 潔	清水 克之	友正 達美
朝田 景	岡島 賢治	小寺 昭彦	清水 夏樹	取出 伸夫
浅野 勇	緒方 英彦	後藤 眞宏	珠玖 隆行	中尾 誠司
安瀬地 一作	小川 茂男	小林 晃	申 文浩	中桐 貴生
有森 正浩	奥野 倫太郎	小林 範之	杉浦 俊彦	中田 撰子
飯田 俊彰	鬼丸 竜治	近藤 美麻	鈴木 哲也	中田 達
石井 敦	神谷 浩二	齋藤 朱未	鈴木 正貴	長野 宇規
石井 将幸	川名 太	齊藤 憲治	周藤 将司	中村 和正
石神 暁郎	河原 行弘	酒井 一人	田頭 秀和	中村 公人
石黒 覚	北川 巖	坂井 勝	高瀬 恵次	中村 真人
泉 智揮	北島 明	坂田 賢	瀧本 裕士	浪平 篤
泉 完	北辻 政文	坂田 寧代	竹内 晴信	成岡 道男
市野 吉造	木全 卓	櫻井 伸治	竹下 伸一	西村 伸一
伊藤 夕樹	木村 匡臣	佐藤 智	武山 絵美	西村 拓
稲垣 仁根	桐 博英	佐藤 周之	田島 正廣	西山 竜朗
井上 一哉	九鬼 康彰	佐藤 政良	多田 明夫	橋本 禅
井上 敬資	工藤 亮治	左村 公	田中丸 治哉	長谷川 拓哉
井原 郁夫	久保 成隆	澤田 豊	谷口 智之	八丁 信正
遠藤 和子	久米 崇	塩沢 昌	近森 秀高	服部 俊宏
大久保 天	栗田 英治	重岡 徹	長 裕幸	濱上 邦彦
大澤 和敏	黒田 久雄	柴田 昇平	土原 健雄	浜口 俊雄

林 田 洋 一	星 川 圭 介	丸 山 利 輔	森 洋	山 本 勝 利
原 科 幸 爾	星 野 敏	溝 口 勝	森 充 広	山 本 清 仁
兵 頭 正 浩	堀 俊 和	三 石 正 一	森 井 俊 広	山 本 忠 男
平 瑞 樹	本 多 剛	三 野 徹	森 本 英 嗣	弓 削 こ ず え
平 松 研	前 田 滋 哉	宮 本 輝 仁	諸 泉 利 嗣	柚 山 義 人
福 田 信 二	前 田 敏 也	宮 本 英 揮	安 延 久 美	吉 川 夏 樹
藤 川 智 紀	牧 山 正 男	向 井 貴 彦	山 岡 賢	吉 田 貢 士
藤 澤 和 謙	松 井 宏 之	村 上 章	山 路 永 司	吉 田 武 郎
藤 原 正 幸	松 島 亘 志	毛 利 栄 征	山 下 正	若 林 孝
藤 原 洋 一	松 本 健 作	望 月 秀 俊	山 下 良 平	渡 部 慧 子
藤 山 宗	間 野 大 樹	森 淳	山 中 稔	

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 4 月号掲載の問題は 5 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 28 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 28 年発行の学会誌も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそ

れを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 84 巻（平成 28 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき

20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切

春季 平成 27 年 6 月 30 日

夏季 平成 27 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りします。

6. 審 査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 84 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 28 年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 83 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ			要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
83 巻	5 号	国際土壌年 2015 特別企画： かけがえない土壌のために農業農村工学ができること、すべきこと	公募終了
	6 号	大会特集号（中国四国支部）（仮）	公募なし
	7 号	日本の技術・知識・経験を世界の現場に生かす（仮）	公募終了
	8 号	東日本大震災後の放射能汚染を受けた農業農村地域における生産活動・コミュニティ運営にかかわる問題の現状と対策（仮）	公募終了
	9 号	農業農村整備事業における気候変動への適応（仮）	4 月 15 日
	10 号	農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後（仮）	5 月 15 日
	11 号	水土の知を次世代と（仮）	6 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集

しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

83 巻 9 号テーマ「農業農村整備事業における気候変動への適応」（仮）

近年、稲、果樹をはじめとする農産物などにおいて、高温による生育障害や品質低下への対応に多くの努力が払われています。一方、観測記録を塗り替える高温や豪雨、大雪による大

きな災害が頻発し、今後も温暖化とともに極端な気象現象の頻発が予測されています。このような気候変動に備えるには、技術開発や各種施策の転換などを計画的に進める必要があります。

これらの状況を踏まえ、気候変動に対する政府全体の適応計画を平成 27 年夏頃に策定することを目指し、関係府省が連携して検討が進められています。

農地、農業用水、土地改良施設などの農業生産基盤においても、平均気温の上昇に伴う蒸発散量の増加による農地の乾燥化、融雪利用可能水量の減少、水利施設の排水能力の不足など

の影響が予測されており、気候変動への適応が求められています。

そこで、本小特集では農業農村整備事業の幅広い視点から気候変動への適応に関する取組みについて、適応の前提となる影響評価に関する調査研究、高温障害や豪雨などへの対策に関する調査研究や現場報告など報文を広く募集します。

83 巻 10 号テーマ「農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後」

戦後から高度成長期にかけて集中的に整備されたわが国の基幹的農業水利施設は、老朽化が進行しており、すでに標準的な耐用年数を超過している基幹的な水利施設が相当数にのぼると試算されている。

将来にわたって、これら施設の機能を持続的に発揮させていくためには、施設の劣化状況に応じた補修・更新などを計画的に行い、施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るストックマネジメントの取組みを推進していく必要がある。

このような背景から、平成 19 年 3 月に農業水利施設の機能保全の手引きが作成され、現場での取組みの拡大・充実が図られるとともに、平成 22 年に新成長戦略においてその必要性が閣議決定された。これらを受けて、農業水利施設のストックマ

ネジメントが段階的・継続的に実施されるとともに、平成 26 年から 5 年間実施予定の戦略的イノベーション創造プログラムにおいて「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」として研究開発テーマが設定されるなど、ストックマネジメントに関する新たな技術開発も大いに期待されているところである。

そこで本小特集では、農業水利施設のストックマネジメント（管理者による日常管理、定期的な機能診断と評価、調査結果に基づく施設分類と劣化予測、効率的な対策工法の比較検討、計画に基づく対策の実施、調査・検討の結果や対策工事に係る情報の蓄積など）に関して、これまでの取組みと今後の展望や課題について、広く報文を募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが 1.247 と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）

- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

出版社：Springer-Japan 社

発行スケジュール：年 4 回

購読料：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先：農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2015 年 4 月に Vol.13, No.2 が発行されます。

本ジャーナルは 2009 年 12 月より、トムソン・ロイター社の SCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF

（Impact Factor）が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.247 と高い評価を得ております。

また、世界 14 カ国から Editor（23 名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2015年1月から2017年12月までの編集事務局は韓国です。
投稿先：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局：Professor Dr. Jin-Yong CHOI

Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology
 Rural Water and Information Engineering Lab.
 Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University
 1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742
 TEL : +82.2.880.4583 FAX : +82.2.873.2087
 E-mail : iamchoi@snu.ac.kr

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

・ **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)
 Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ **Editors** 14 カ国から 23 名

・ **Editing Board** 26 名

・ **Chief Management Editors**

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

・ **Managing Editors**

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

第 72 回京都支部研究発表会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

日時 平成 27 年 11 月 19 日 (木) 10:00~17:00
 場所 ピアザ淡海
 〒520-0801 滋賀県大津市におの浜 1-1-20
 TEL : 077-527-3315

2. 情報交換会

日時 平成 27 年 11 月 19 日 (木) 18:00~20:00

3. 現地研修会

日時 平成 27 年 11 月 20 日 (金) 9:00~16:00

4. 研究発表申込み

研究発表者は投稿原稿に先立ち、6 月末日までに、以下の情報を簡条書きにしたメールを下記の発表申込先 (石川県立大学・藤原) にご送付下さい (件名を「発表申込み」として下さい)。
 ①表題 (仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門 (水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、

地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。なお、発表者は学会員に限らせていただきます。投稿原稿に関する詳細な要領は 6 月号を参照して下さい。

5. 発表申込先

〒921-8836 石川県野々市市末松 1-308
 石川県立大学生物資源環境学部 藤原洋一
 E-mail : yfuji@ishikawa-pu.ac.jp
 TEL : 076-227-7479

6. 申込期限

- (1) 発表申込み 平成 27 年 6 月末日
- (2) 原稿締切 平成 27 年 7 月末日
- (3) 参加申込み 平成 27 年 8 月末日

7. 問合せ先

滋賀県農政水産部耕地課内
 第 72 回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局
 TEL : 077-528-3943 FAX : 077-528-4888
 E-mail : gh00@pref.shiga.lg.jp

平成 27 年度九州沖縄支部大会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日および内容

平成 27 年 10 月 30 日 (金) (予定日)

(1) 講演会:

沖縄本島コース・沖縄の離島コース

平成 27 年 10 月 28 日 (水), 29 日 (木)

オーラルセッション・ポスターセッション

(2) 講習会:

平成 27 年 10 月 28 日 (水) (予定日)

設計基準書等の解説

(3) シンポジウム:

平成 27 年 10 月 29 日 (木)

テーマ「九州・沖縄の農政改革に向けた農業農村整備の
課題と展望」

(4) 支部研修会:

平成 27 年 10 月 29 日 (木) (予定日)

テーマ「九州・沖縄の農業農村整備と地域づくり」(仮)

(5) 現地見学会:

2. 会 場

ANA クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎 2-46

3. プログラム, 申込方法等

第 2 報にて詳細をお知らせします。

4. その他

公務取扱い対応型のプログラム編成を検討しております。全
国各地からの幅広いご参加をお待ちしております。

5. 問合せ先 (平成 27 年 3 月 19 日時点)

沖縄県農林水産部農地農村整備課農地水利班 瑞慶覧

TEL: 098-866-2285 FAX: 098-866-2879

E-mail: zukerayo@pref.okinawa.lg.jp

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

資格試験のための 農業農村工学必携

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書は「改訂七版 農業農村工学ハンドブック (平成 22 年発行)」を再編集してコンパクトにまとめたものです。

資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。

さらに要所には、資格試験で過去に出された問題を確認テストとして挿入しており、理解度の自己点検も行える内容となっています。

主要目次

[本編]

- 第 1 部 農業農村工学概説
- 第 2 部 農業農村の整備計画
- 第 3 部 設計・施工
- 第 4 部 管理
- 第 5 部 事業の施行

[基礎編]

- 第 1 部 数学・情報
- 第 2 部 土
- 第 3 部 水
- 第 4 部 基盤
- 第 5 部 農業・環境
- 第 6 部 社会
- [索引]



体裁: B5 判 約 550 ページ
定価: 2,777 円
(税込・送料学会負担)

発行: 公益社団法人 農業農村工学会
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494 E-mail: suido@jsidre.or.jp
学会ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp/>